

|   |   |
|---|---|
| <b>1 学校教育目標</b><br>郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成<br>・「主体性」=自分(たち)で考え行動する<br>・「つながる」=保護者・地域と共に創る学校づくり | <b>2 本年度の重点目標</b><br>①学ぶ喜びと達成感が味わえる学校<br>②心が通い合い、笑顔いっぱいの学校<br>③地域から信頼され、地域と共に発展する学校 |
|---|---|

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

| 3 目標・評価 |                    |                             |   |   |           |       |
|---------|--------------------|-----------------------------|---|---|-----------|-------|
| ①       |                    |                             |   |   |           |       |
| 領域      | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)          | 具体的目標   | 具体的方策   | 担当分掌(部)   | 担当者   |
| 教育活動    | ●学力の向上             | 基礎的・基本的学力の定着と活用の向上          | ・全国平均より高い水準での学力の維持を目指す。<br>・「自分の考えを文や言葉で表現することができる」という児童を85%以上にする。  | ・学力向上対策の取組みである『須古小スリーアップ作戦』を充実させ、①授業改善②学習・生活習慣づくり③家庭学習の向上を全校的に行っていく。<br>・朝の時間を活用したヤッタータイム(国・算)の時間確保と級外やSAの支援を充実させていく。<br>・校内研究や公開授業の場を生かし、研究・実践を積みながら、教員個々の指導力向上を目指していく。  | 学力向上      | 北川    |
| 教育活動    | ○特別支援教育の充実         | 教師の専門性と意識の向上                | ・個別の支援を必要とする児童への指導の在り方について全職員の共通理解を図り、指導法を工夫する。   | ・特別支援学校などの諸機関と連携を深め、巡回相談等での指導助言を個別の支援計画に生かしていく。<br>・共通理解の会を定期的に行い、組織的に対応する。<br>・SAを活用した個別指導・支援を実施する。  | 特別支援教育    | 紀伊重廣  |
| 学校運営    | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | 校務等の効率化の促進                  | ・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組みを推進するとともに、教職員の時間外勤務について1ヶ月当たり前年度比5%削減する。   | ・特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。<br>・二部会において、年間を見通した行事の分担を行い複数の体制でPDCAサイクルに基づいた取組みを行う。<br>・金曜日の定時退勤日を推進し、毎月第1金曜日と第3水曜日は全員退勤を奨励する。  | 学校運営      | 坂田    |
| ②       |                    |                             |   |   |           |       |
| 領域      | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)          | 具体的目標   | 具体的方策   | 担当分掌(部)   | 担当者   |
| 教育活動    | ●心の教育              | 感謝の心、思いやりの心の育成              | ・「自分のよさや友だちのよさが分かる」児童の割合を90%以上にする。<br>・授業参観で道徳の授業を年1回以上行う。(ふれあい道徳)<br>・校内研究において「特別の教科 道徳」についての研修を行い、研究授業を通して共通理解を深める。       | ・人権教育の視点に立った授業や実践を行う。<br>・人権集会、平和集会、なかよし活動、「けやきの木」活動を継続して実施する。<br>・なかよし活動を充実させ、けやきカードも効果的に活用して児童の自己肯定感を高める。<br>・異学年で互いのよさや働きを認められるような場や機会を設定する。<br>・全校でなかよし宣言を考えさせ、思いやりの気持ちを育む。   | 道徳        | 小田島北川 |
| 教育活動    | ●いじめの問題への対応        | 生徒指導、教育相談の充実                | ・「あいさつだ・い・じができて」という児童を90%以上にする。<br>・「学校が楽しいと思う」という児童100%を目指し、QUテストの学校生活満足群の児童を増やす。<br>・いじめの認知、認知に対する共通理解を図り、早期発見、対応の迅速化を行う。 | ・生活のめあてや事案について共通理解を図り、組織的に対応する。<br>・定期的なアンケートや心のチェックシートを行い児童の実態把握に努める。<br>・QUテスト、パールソンの抑うつ傾向テスト等を活用し、課題の早期発見や児童理解に努める。<br>・スクールカウンセラーやひだまりルームについて児童や保護者に周知し、積極的な活用を図る。<br>・いじめ対応マニュアルを教職員が熟知し、体制作りをする。<br>・全校でなかよし宣言について考える機会をもち、思いやりの気持ちを育む。 | 生徒指導・教育相談 | 井上山口れ |
| 教育活動    | ●健康・体づくり           | 健康な生活習慣の形成                  | ・「早寝・早起き・朝ごはん」ができていた児童90%以上にする。<br>・食の大切さを理解させ、バランスのよい食事ができるようにする。  | ・食への意識を高めるために、食育授業や健康チェック調査・保健指導を実施する。<br>・手洗い・うがいの奨励や清潔検査の実施、外遊びの奨励により、健康作りへの意識を向上させる。   | 健康教育・食育   | 山口れ紀伊 |
| 教育活動    |                    | 運動習慣の定着化                    | ・進んで運動を楽しむ児童85%以上を目指す。  | ・ジョギング・ウォーキング週間の実施、昼休みの外遊びの奨励により、健康作りへの意識を向上させる。<br>・委員会活動と連動して、全校で運動に取り組む機会を設ける。   | 体育        | 藤家北川  |
| ③       |                    |                             |   |   |           |       |
| 領域      | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)          | 具体的目標   | 具体的方策   | 担当分掌(部)   | 担当者   |
| 教育活動    | ●志を高める教育           | 地域を生かした体験活動の充実(愛郷心の育成)      | ・地域と連携・交流を生かした教育活動の推進を図る。<br>・須古のよいところがわかり、伝えたいと思う児童の割合を85%以上にする。   | ・全学年で地域を生かした学校行事、学級活動での体験活動に取り組みせ、活動を通して地域の「人・もの・こと」に関わらせる。<br>・地域の歴史に関する学習や体験活動に取り組み、郷土のよさを体感させる。  | 地域連携      | 小田島川崎 |
| 学校運営    | ○開かれた学校づくり         | コミュニティ・スクール導入による家庭・地域との連携強化 | ・コミュニティスクールの認知度を90%以上にし、学校の教育活動への協力者を増やす。   | ・学校便り、学級便りを定期的に発行し、積極的に情報の発信を行う。<br>・ブログも随時更新し、教育活動を発信する。<br>・評議委員会や学校運営協議会等でコミュニティスクールに関わる年間の行事を周知し、家庭・地域への協力体制を構築する。  | 学校運営      | 教頭    |

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目